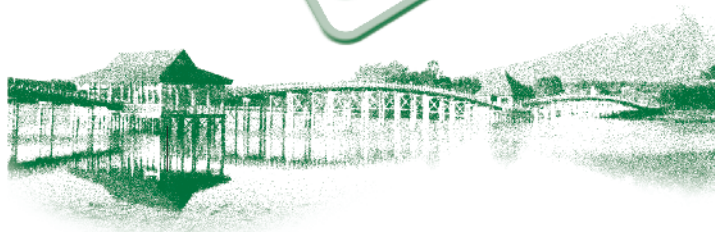


子どもたちの楽しい一日

11月3日（土）、「子どもの祭典」が町保健福祉センター「鶴遊館」で開催され、町内の子ども約120人が参加しました。

祭典では、鶴田町太鼓の会による演奏の後に実際に太鼓の体験をするイベントや、鶴田町ジュニアリーダーズクラブ「HIZURU」によるゲーム大会、その他ビンゴ大会も開催され、子どもたちを楽しませました。お昼には、各町内会の子ども会や大人が協力して、棒パンなどの食べ物やくじなどの出店を開き、子どもたちは大喜びでした。

参加した子どもたちは、「太鼓はちょっと難しかったけど楽しかったです」「くじも楽しかったし、棒パンも美味しかったです」と笑顔で話していました。



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。



△後出しじゃんけん大会で盛り上がる子どもたち

郵便局長会が車いす寄贈

10月25日（木）、鶴田町保健福祉センター「鶴遊館」において、青森県西部郵便局長会 五所川原部会（松山保部会長）から、車いす2台が社会福祉法人 鶴田町社会福祉協議会（中野撃司会長）へ寄贈されました。

贈呈式では、松山部会長が、「町社協が持つ、誰もが快適な生活を送れるように、という理念は私たち郵便局も持っています。同じ理念を持っていることに感銘を受けました」とあいさつ。出席した一戸勇常務理事は、「車いすは、今ではただの補助器具ではなく利用者の体の一部になっています。こういった寄贈は本当にありがたいです」と感謝の言葉を述べていました。



△（左から）一戸常務理事、松山部会長、中畑胡桃館局長、秋庭水元局長

短歌大会が開催されました

10月28日（日）、豊明館において、「第24回鶴の舞橋開通記念県下短歌大会」が町と鶴田短歌会（棟方文雄会長）の主催で開催され、青森市や弘前市からの参加者など、58人が参加しました。

今年は、平成最後の大会ということからテーマは「平成」。参加者は、電子辞書などで言葉を調べながら、納得のいくまで短歌作りに取り組んでいました。

今年は、弘前市から参加した赤坂千賀子さんが優勝。赤坂さんは「5年前から参加していて、今年で2回目の優勝です。以前は鶴田町で教師をしていました。縁のある鶴田町の大会で優勝できて嬉しいです」と喜びを語っていました。



△参加者は集中して短歌作りに取り組んでいました



△リンゴの落札額を確認し喜び子どもたち

育て、収穫したリンゴの競り見学

梅沢小学校の4、5年生が春から育て、収穫したふじのリンゴ4箱が11月13日（火）、五所川原中央青果（木村吉幸社長）で競りに出され、児童15人がその様子を見学しました。

梅小のリンゴは、東日流農産が1箱2万5千円で落札。同じ品種のリンゴでは今年最高値となりました。落札した東日流農産の小笠原部長は、「リンゴを見て子どもたちが頑張って育てたのが分かりました。このリンゴは贈答用として販売します」と話していました。

4年生の永田琉真くんは、「高く買ってもらえて育てたかいがありました。競りも初めて見たけど楽しかったです」と嬉しそうに話していました。

創立140周年記念クルミクッキー

今年で創立140周年を迎えた胡桃館小学校の6年生が、「創立140周年記念クルミクッキー」を企画し、11月14日（水）、6年生9人が道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」の加工室で製作しました。材料には、児童らが学校の中庭に生えているクルミの木から集めたクルミも使用され、11月25日（日）に行われた「くるみふれあいまつり」では、地域の方々に200枚を販売し、売り上げの一部は材料費の一部を負担したあるじゃへ返還されました。

参加した須郷晶くんは、「企画を考えたりクッキーを作ったりしましたが、全てが初めてで楽しかったです」と笑顔で話していました。



△慣れないクッキー作りに、協力しながら真剣な表情で取り組んでいました